

京都市立病院における患者誤 認対策について

京都市立病院

寸田 靖

はじめに

医療事故の中でも患者誤認は、重大な医療事故に繋がりがねないため、これまでいくつかの対策を講じてきた。特に平成20年11月からは医療安全全国共同行動に参加し、行動目標8の『安全は名前から』活動を院内で推し進め、より充実した患者誤認対策を行った。今回その遵守状況と効果、そして今後の課題について報告する。

これまでに行ってきた患者誤認対策方法

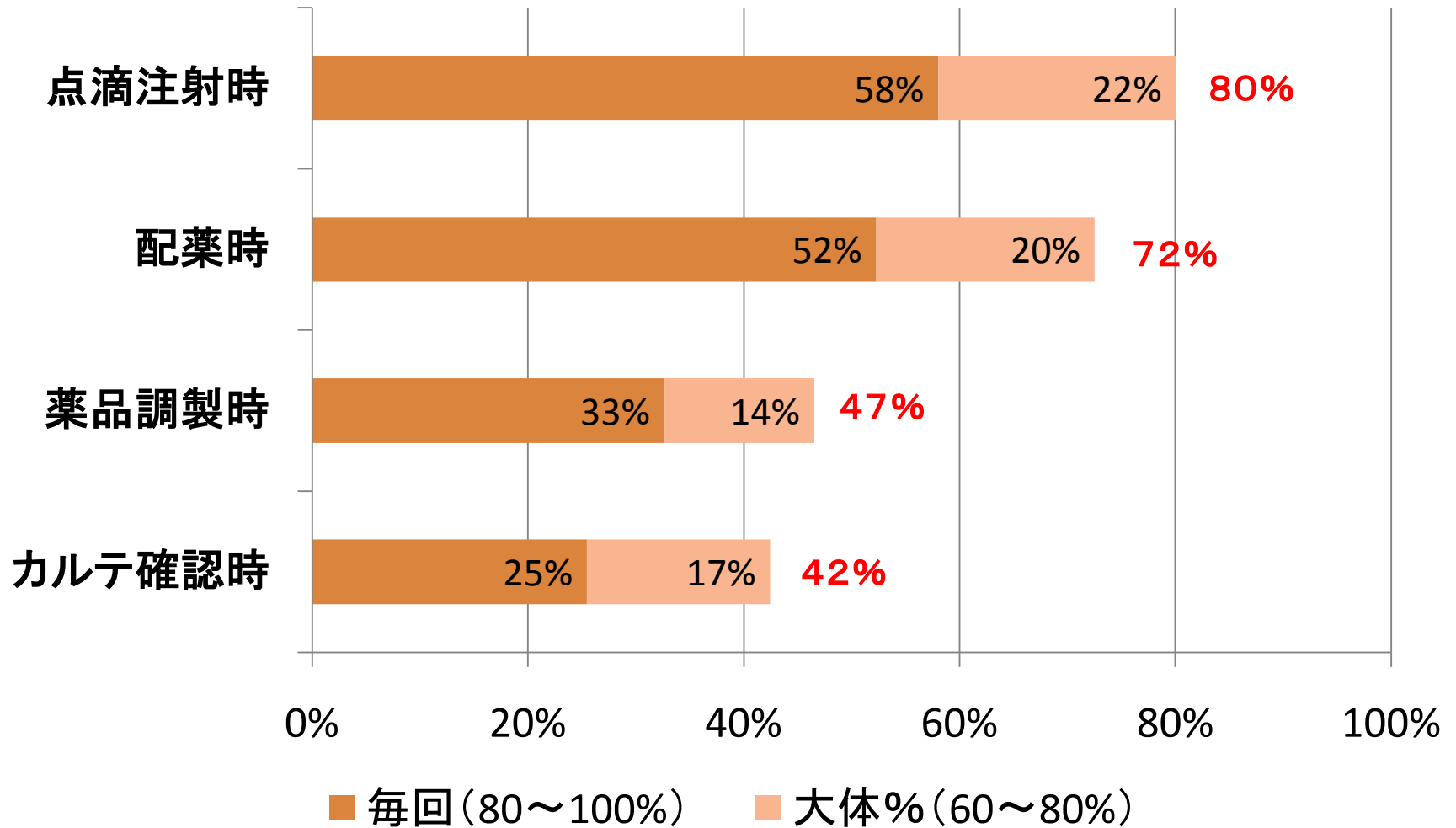
- 指差し呼称の励行
- 患者バーコードを利用した照合
- 「安全は名前から」活動（フルネームでの確認）

遵守状況を確認するために
アンケート調査を行いました。《H22.1》

看護師：427名，医師21名，薬剤師19名，放射線技師23名，

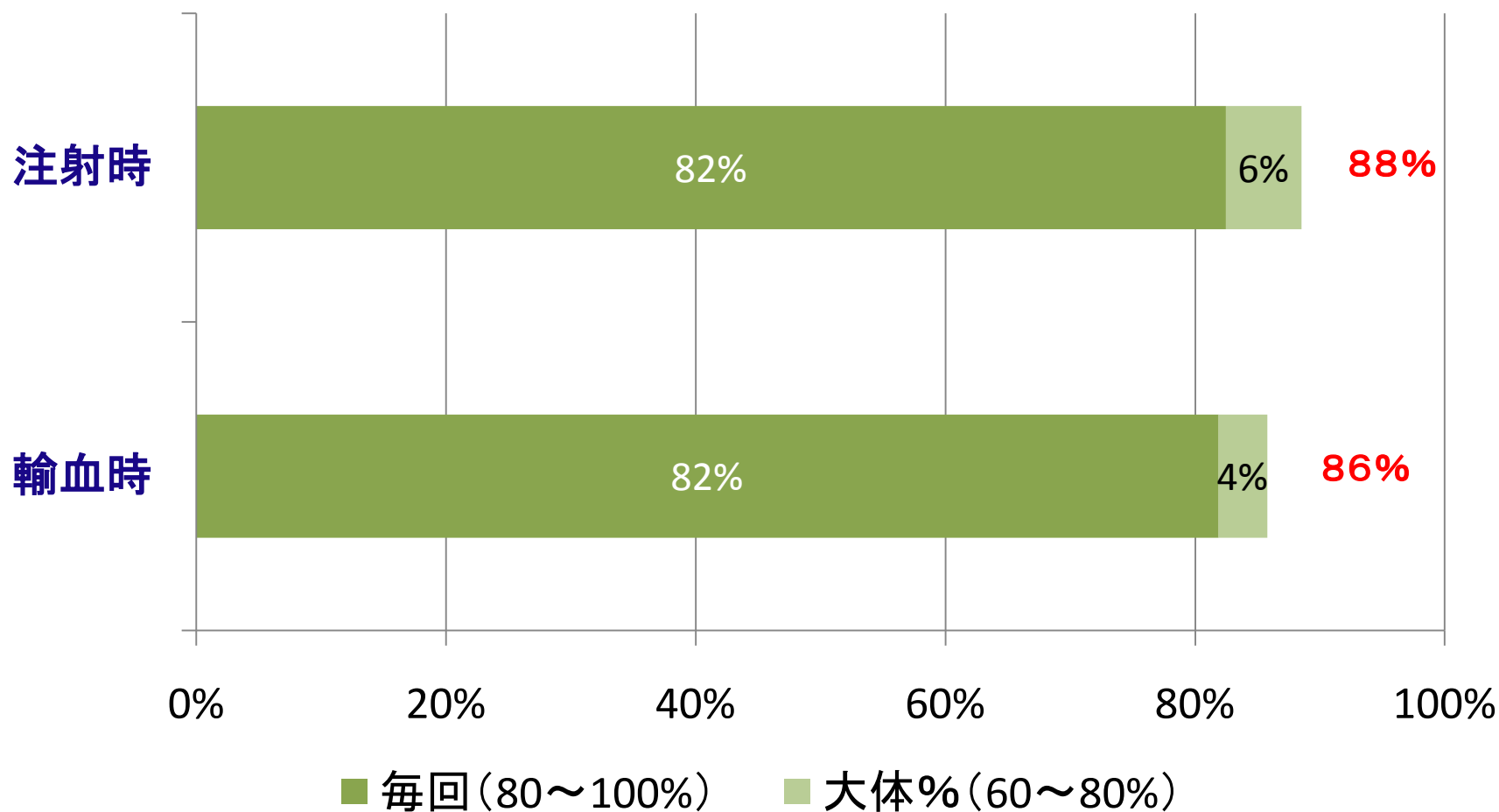
検査技師18名，理学療法士7名，医事課56名 **合計571名**

《アンケート結果》

指差し呼称の遵守状況
《H22.1》(看護科病棟)

《アンケート結果》

3点照合を行っている 《H22.1》(看護科病棟)



医療安全全国共同行動のポスター掲示《H21.1～》

お名まえをどうぞ
ありがとうございます。

お名まえを私たちは何度もお聞きします。
お名まえの確認は医療安全の基本。当院にはたくさんの方がいらっしゃいます。ご本人にフルネームを言っていただくのが一番確かです。

同姓や似た名まえはたくさんあり、あなたの治療にはたくさんの医療者がかわっています。万一、まちがいがおきると、大きな事故につながることもあります。だから、ご本人にフルネームを言っていただくことで、とても助かります。ご理解とご協力をお願いいたします。

知ってる仲にも
確認あり！



Yuzo

何度も聞いて
ごめんなさい



Kikko



いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

医療安全全国共同行動行動目標8 患者・市民の医療参加



いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

医療安全全国共同行動行動目標8 患者・市民の医療参加

お名まえをどうぞ
ありがとうございます。

安全は名まえから

どんなに有効な医療でも、万一誤った人に行われてしまえば、重大な損害をもたらしたり、信頼が損なわれることもあります。ご本人にフルネームをお答えいただくのが、最も確実な確認方法です。

●名まえ確認はすべての基本

外来診察、処置、検査、点滴・注射、手術室、病棟など

●聞き間違いと類似名の危険

似た名まえは意外に多く、医療者も患者さんも聞き間違いはあります。

●こちらから問いかけましょう。

「安全確認のために、お名まえをお願いします」

小児でもできるだけ本人に答えてもらう。

意識の無い場合はリストバンドや診察券を活用し、複数人で確認する

●こんな対策で効果をあげている病院もあります。

カルテに目立つシールなどを貼って注意を喚起

類似の名まえの人がいることを、患者本人にも知らせる

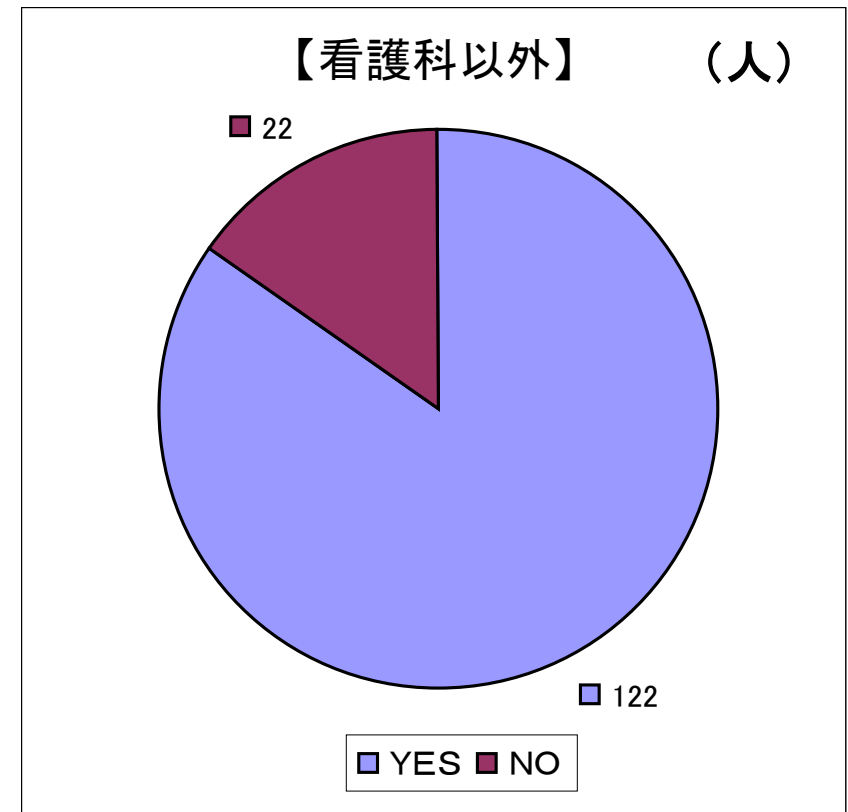
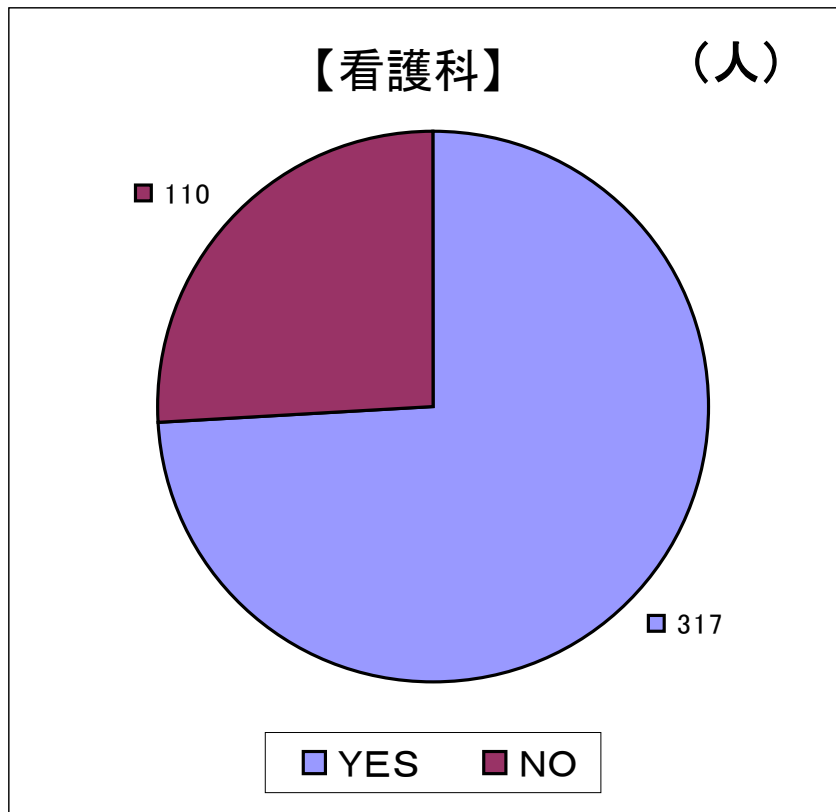
同姓同名の人には、名まえと生年月日を言っていただく

同じ病室や病棟にならないようにする

業務手順を見直し、患者誤認を回避する

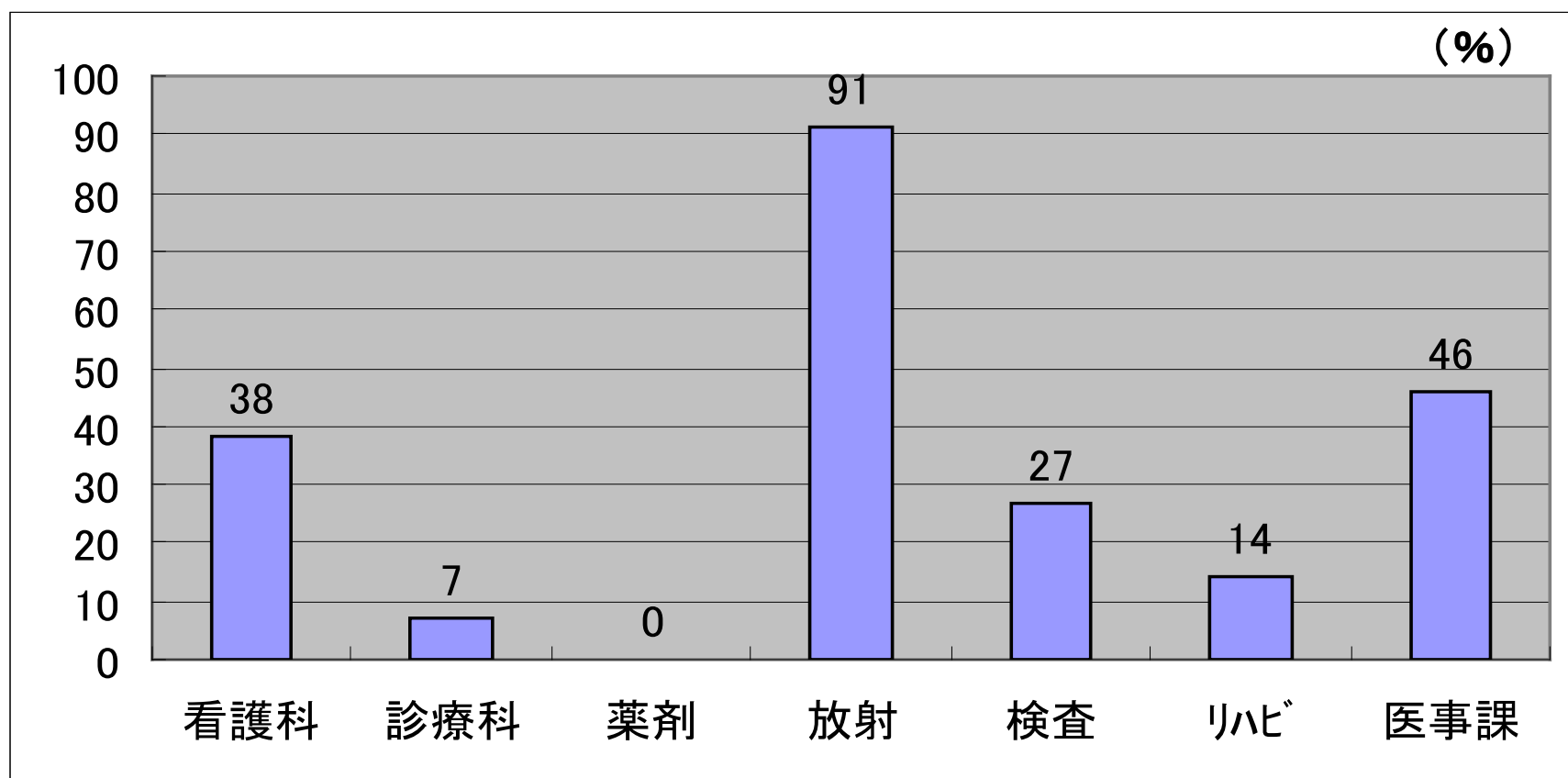
《アンケート結果》

『安全は名前から』のポスターの内容を理解していますか？ 《H22.1》



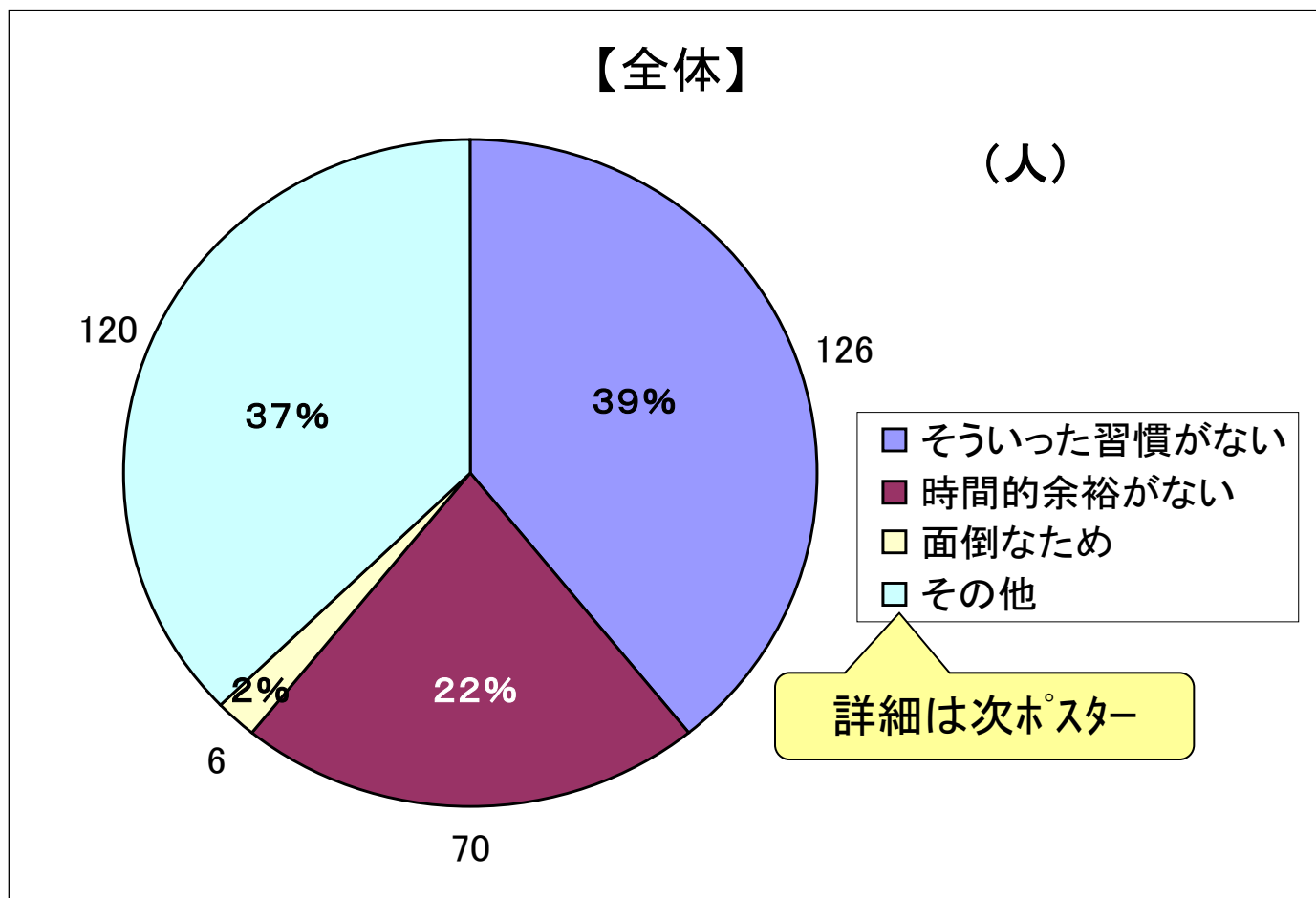
《アンケート結果》

患者自身からフルネームを必ず
名乗ってもらっている部署別割合《H22.1》



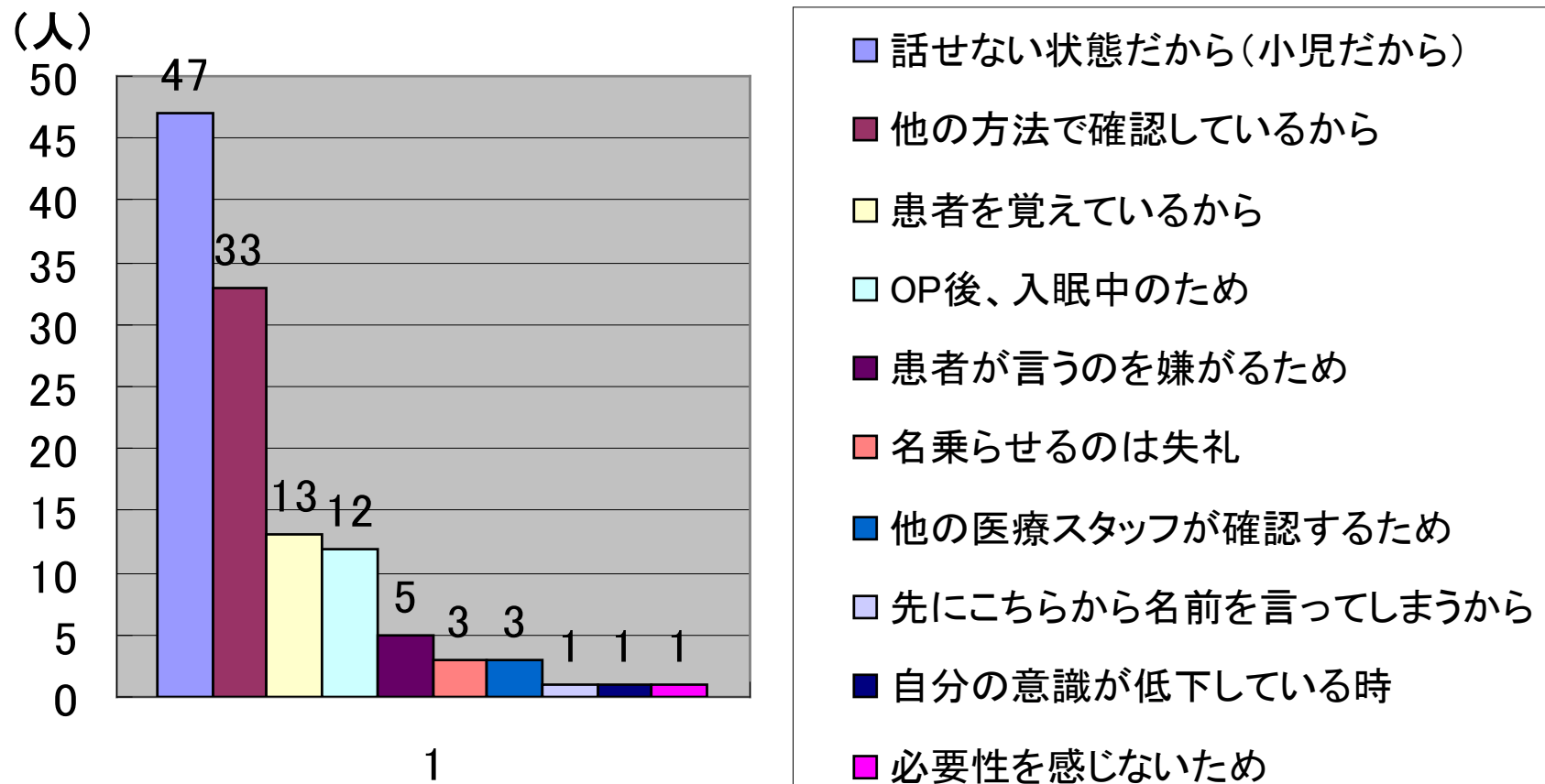
《アンケート結果》

患者からフルネームを
聞かない理由は？ 《H22.1》

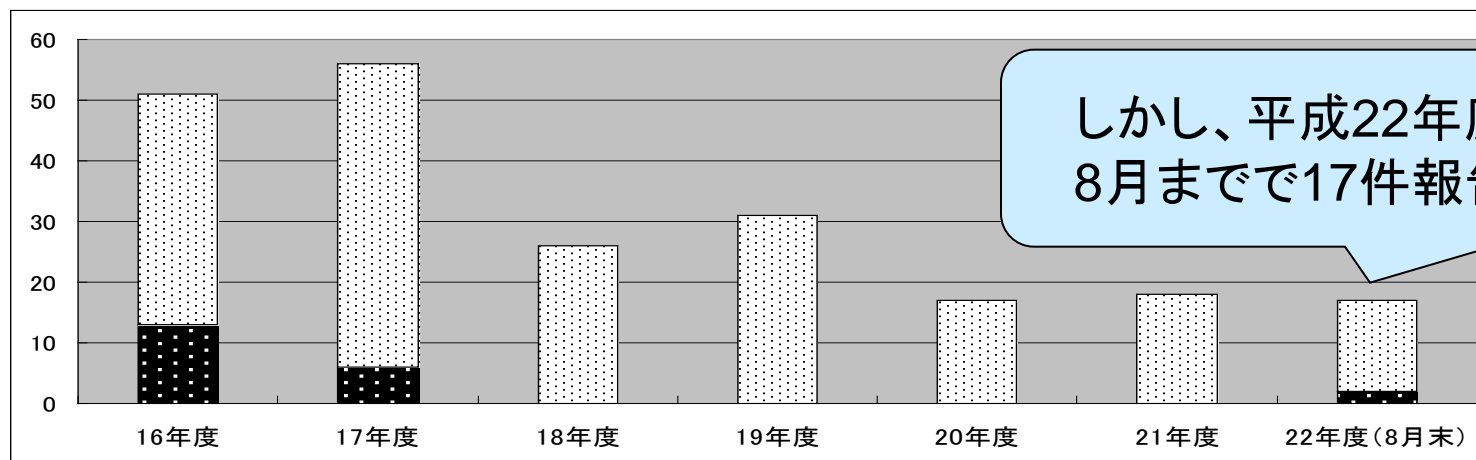
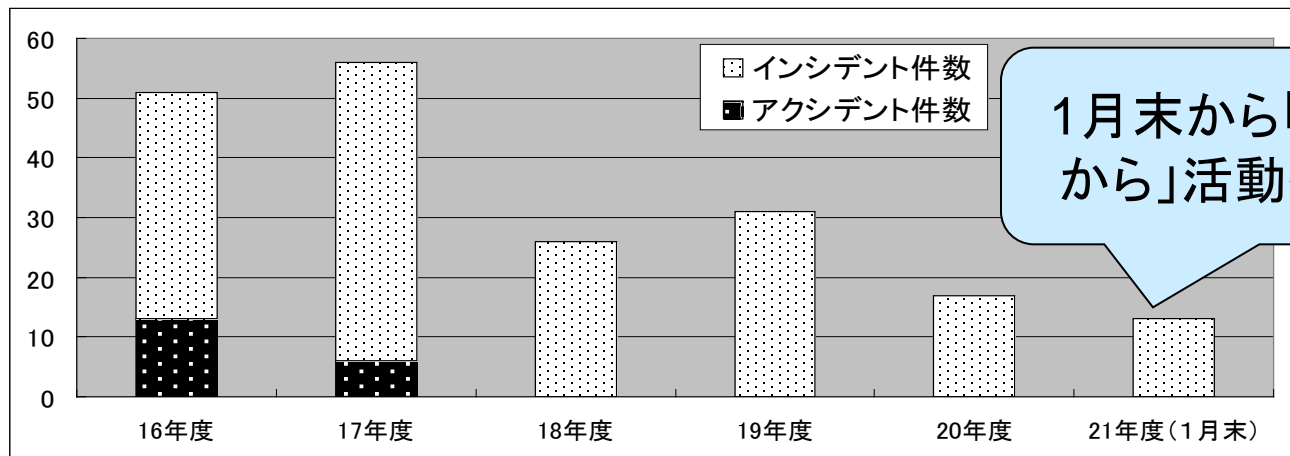


《アンケート結果》

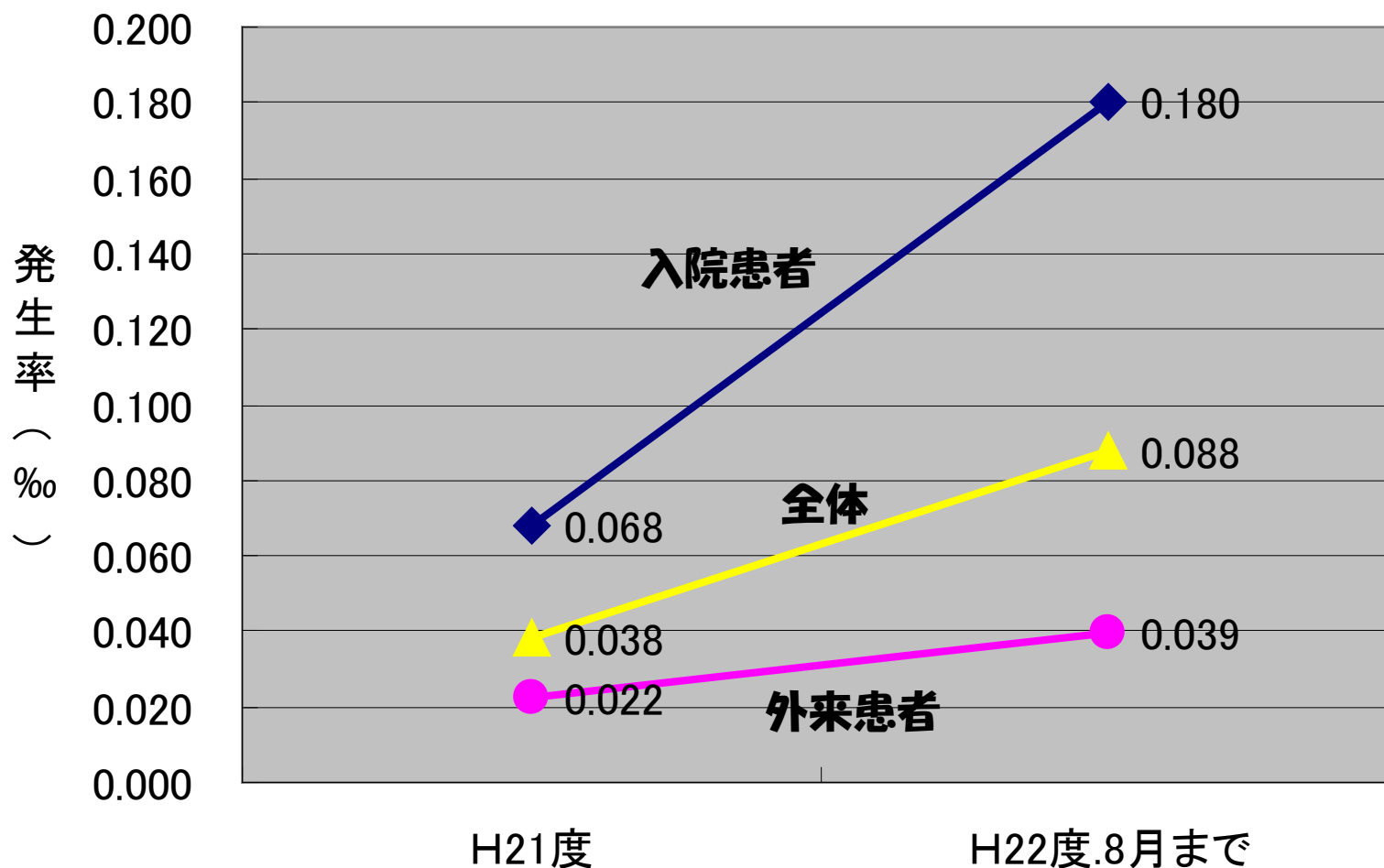
患者からフルネームを聞かない理由は？（その他）



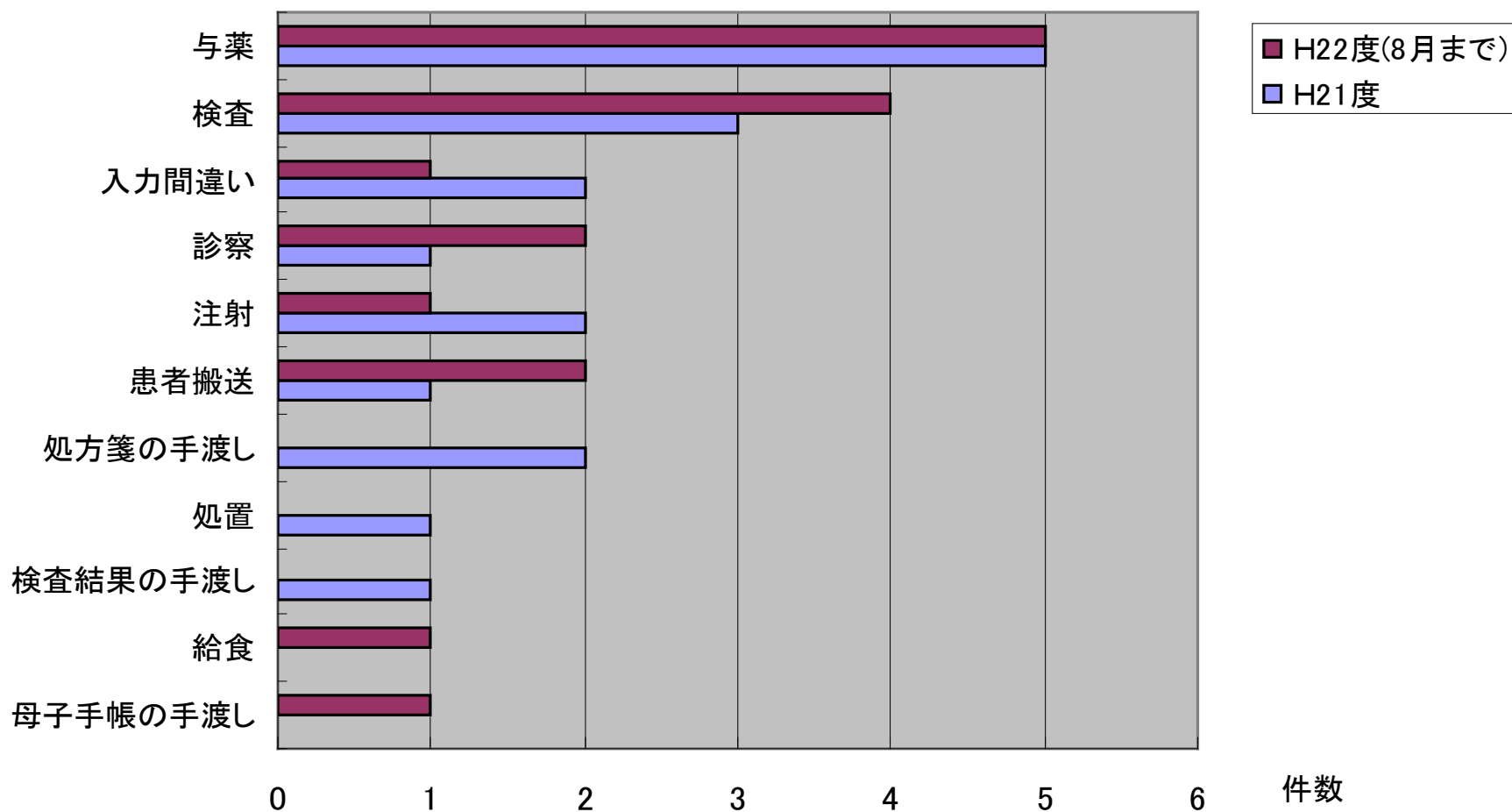
患者誤認事故報告件数の推移



患者誤認発生率年度比較



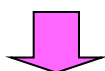
平成21年度と平成22年度(8月まで)の誤認内容比較



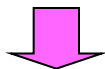
結果・考察①

●アンケートの結果・考察

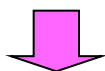
- 指差し呼称：注射時や配薬時にはある程度定着していた。
薬品の調製時やカルテ確認時など、直接患者と接しない場面では不十分であった。
- 3点照合：ほぼ定着していた。
- 名乗ってもらっての確認：部署によりばらつきがある。
- 名乗ってもらわない理由：「時間的余裕がない」、「面倒だから」、「他の方法で確認」が多くあった。



- 『安全は名前から活動』の意味があまり理解されていない。



- 今年度、誤認事故件数が前年度のペースを大きく上回っている。
(8月までは毎月2～5件の患者誤認が報告)



- 9月を患者誤認対策強化月間とし、『患者誤認対策キャンペーン』を行った。

患者誤認対策キャンペーン

《活動内容》

- 患者誤認対策ポスターを作成し掲示した。(別添1)
- 医療スタッフが使用するすべての受話器に注意喚起札を取付けた。(別添2)
- 院内メールで『安全は名前から』活動を周知した。
- 電子カルテ端末のスクリーンセイバーにフルネーム活動を推奨するイラストを表示させた。(別添3、4)

《医療者向け》

患者誤認対策特別強化月間！！

今年度、患者誤認が大幅に増加しています。

そこで、9月を患者誤認対策特別強化月間として、再度、全職員で以下の誤認防止策を徹底することになりました。

- ① 指差し呼称による確認
- ② バーコードリダ、PDAによる照合確認
- ③ フルネームを名乗ってもらい確認
(フルネーム活動)

全職員が決められた対策を確実に行うことで
市立病院から患者誤認を撲滅しましょう！！



京都市立病院長

フルネームを名乗って頂くキャンペーン！！

患者誤認を防ぐため、あらゆる医療行為の前には、必ず患者さんにフルネームを聞き、確認して下さい。



『医療安全のためです。
お名前を教えてください。』



『安全のために、お名前をお聞かせ下さい。』



京都市立病院長

別添 1

《患者向け》



患者さんへの願い

まず、ご自分のお名前を
フルネームで名乗ってください。

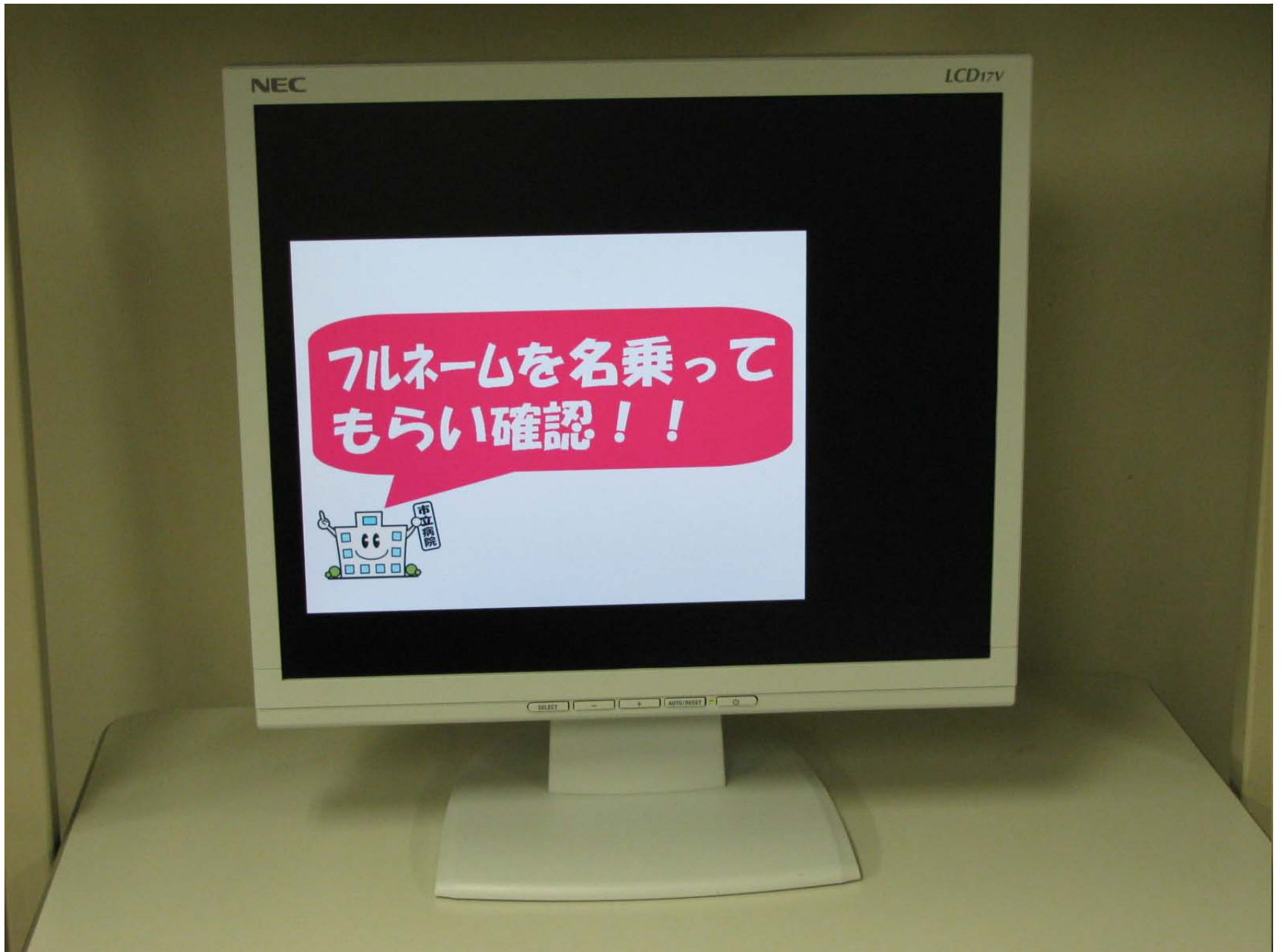
当院では、患者さんの誤認(人間違い)を防止するため、
診察や検査などの前にお名前(フルネーム)をお聞かせ下さい。
みなさんの安全を守るため、ご協力をお願いします。



京都市立病院 病院長

別添 2





結果・考察 ②

9月に患者誤認対策キャンペーンを行ったことで全職員に患者誤認対策に対する意識付けとその遵守の重要性について認識され周知できたと期待していた。

しかし、9月にも給食において看護師と栄養士に2件の誤認事故が発生した。一つは配膳の際、二人分の食事を持っていたため誤ってしまった。もう一つは同姓患者と間違えて転棟処理を行ったため食事が上がらなかった、という事例であった。

いずれもフルネーム確認を行うことで防止できた事例である。

以上のことから、『患者誤認は危険だ。防ごう！』という認識がまだ全職員には定着できていないことが分かった。

結 語

患者誤認対策の基本はやはり名前確認である。患者確認が必要な場面において、医療者は患者本人にフルネーム、時には生年月日を言ってもらい、確認をする。これが最も確実な方法だと考える。

しかし、全医療スタッフにその認識を持たせ、実行させることは容易ではないことも分かった。

今後、再度アンケート調査を行い、その意識を確認すると共に、各部署での患者誤認を起こす場面を調査し、各部署と共にそれぞれの対策方法を練り、実行することで患者誤認ゼロを目指したい。